

わが村は美しく

名寄市編

第十二回 優秀賞

名寄市立大学援農ボランティアの会



援農ボランティアとして、早朝からスイートコーンの収穫に取り組む学生。

お話をしてくれた人



名寄市立大学
今野聖士 さん



2023年度援農ボランティアに参加した学生に配られた記念のキーホルダー。



学生の思いと、農家の思いを
マッチングさせた名寄市立大学。
有償というボランティアの
新しいカタチに注目！

学生が支える名寄の
アスパラガス、スイートコーン

旭川市から北へ約七〇キロにある名寄市は、農業を基幹産業として古くからもち米作りが盛んである。市内の水田のおよそ九割がもち米という「日本二のもち米の里」を標榜。アスパラガス、スイートコーンも日本有数の生産量を誇りとしている。今名寄市で、注目を集めているのが、名寄市立大学（保健福祉学部栄養・看護・社会福祉・社会保育の四学科）で展開されている「援農ボランティア」だ。

同大学の准教授・今野聖士さんは話す。「近年は農業従事者の高齢化やパート作業員の不足が進み、特産物の生産を維持することが難しくなってきました。学生に向けて、農業アルバイトを募集しましたが、全く応募がない状態が続いていました。二〇一七年、市役所や農業関連団体から大学への支援を求める声が高まり、どうしたら学生が農業に興味を持ってくれるか、農業アルバイト応募の壁が何かを探るため、ヒアリングを開始しました」。

単なる農業アルバイトではなく、学生と農業のつながりを作り出せるような取り組みが必要だと感じ、大学や名寄市、農協の担当者が集まって話し合いを重ね、食農教育という学びも含めた援農ボランティア活動で互いに有益な関係性を作ることができるとはなかった。

これまでのボランティアとは基本無償だが、単なる「心の報酬」では長続きしない。そこで「有償」のボランティアとし、最低時給を確保し、農作業に必要な作業着や長靴や雨カッパを貸与して、援農ボランティアと

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

名寄市へは、JR宗谷本線名寄駅で下車。市内には、北北海道の歴史と冬の鉄路を守ってきたSL排雪列車「キマロキ」が、北国博物館前にて10月下旬まで展示されている。観光情報は「なよろ観光まちづくり協会」のホームページなどを参照。名寄市立大学では9月28日（土）にオープンキャンパスを開催予定。詳しくは同大学の公式ホームページを参考にしてください。
お問い合わせ／名寄市立大学 ☎01654・2・4194



4 収穫後すぐに規格サイズをそろえる作業が続く。根気と繊細さが要求される。



3 名寄市立大学のシンボリックな3号館を背景に、葛西沙知さん(左)と田甫真鈴さん。



7 鮮度が命のスイートコーンは、収穫後すぐに箱詰めされる。手慣れた学生の仕事ぶりに農家さんも任せて安心。



6 1本1本手で収穫されるアスパラガス。収穫から全ての作業で繊細さが要求される。



5 作業の休憩の合間に、農家さんと談笑する学生たち。やりがいを感じる大切なひと時だ。

栄養学科四年、根室市出身の田甫真鈴さんは、「せっかく名寄の大学で学ぶなら、地元らしいことをしたいと考えていました。将来は学校給食に関わる仕事をしたいと考えていたので、援農ボランティアには興味がありませんでした。一年から参加して、今も続けています。自分が経験した農業との関わりを他の多くの学生に知ってほしいと思い、オープンキャンパスで援農ボ

人間関係を築いた 援農ボランティア

して確立させた。組織作りも特徴的だ。学生に求人を行うのは、大学のコミュニティケア教育研究センター、農家の仕事を募集するのはJ A道北なよろ、作業着や長靴などの備品を提供するのは、市やJ Aが資金提供をしているファームサポート協議会と、それぞれが役割を分担して援農有償ボランティア事業を確固たるものにしていった。

ランティアの魅力を紹介しています」と話す。

同じく葛西沙知さんは、「食育に興味があつて、援農ボランティアを通して多くを学ぶことができました。人間関係の幅が広がり、農家さんとの絆も深まりました」と話す。二人は援農ボランティアを通じ、講義では学べない名寄市の農産物の魅力や生産者の現状を知ることにもつながっている。

土日だけの学生のボランティアで、不足している労働力をカバーできるのか？と考える人もいるだろう。実は、平日に雇用している農業のパートさんの休みを確保できるようになり、思った以上に大きな役割を担っている。まさに農業のワークシェアに二石を投じる取り組みだ。

こうして、現在では毎年二十戸以上の農家に延べ人数で七十名以上の学生が参加している。

農業で培った人間関係が、大きな宝となつて学生の人間性も磨かれる。年月を重ね、今や欠かせない存在になった。

①



「わが村は美しくー北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311(内線5685)

